

海外留学生

女子栄養大学大学院の学びを世界へ

世界トップクラスの健康水準を誇る日本。

栄養・食生活改善の方法論をしっかりと学び、自国の健康課題解決に役立てたい。

時代にニーズに合った

デジタル教材の可能性を母国に発信したい

インドネシアでは栄養学を中心に学んでおり、地域や人々の問題に対しての施策立案ができる地域栄養学について興味をもっていました。留学先を決める際には、日本だけでなく他国の地域栄養学を研究されている武見先生を紹介してもらい、奨学金制度を利用して留学を決めました。日本では栄養学に関する教材が多様であり、オンラインでもマンガなどを題材に思春期の子どもでもわかりやすい教材が揃っていると実感。私は、栄養教育に関するデジタル教材を自国の地域社会に普及させたいと考えています。将来は、栄養教育をテーマにアニメーションを用いた動画制作をしたいです。研究室のメンバーは、いつも声をかけてくれ、研究のレポートやプレゼンテーションのアドバイスもしてくれるので、充実した学生生活を送れています。



Akrim said

アクリム サイド

栄養学専攻

修士課程2年

指導教員:武見 ゆかり教授

出身国 インドネシア



BUI THU HIEN

ブイ トウ ヒエン

栄養学専攻

修士課程2年

指導教員:本田 佳子教授

出身国 ベトナム

母国が抱える健康問題の解決に
貢献する研究を追求したい

将来は日本で高等教育を受けたいと考えている時、味の素奨学金制度を知り来日を決意。ベトナムでは、もともと栄養学を専攻しており、大学院では医療栄養学をより専門的に学びたいと思っていました。研究室では、「日本の糖尿病患者に対する栄養教育」をテーマに研究に取り組み、病院から支給された患者様のデータを解析して論文にまとめています。ベトナムでは、栄養士不足が問題で、病院での適切な栄養指導ができていない為、日本で身につけた知識を自国のために活かしていきたいと考えています。女子栄養大学の皆さんは、とても親切に接していただき、勉強や私生活に対してたくさんのサポートしてくれました。おかげで異国での生活に不安もありましたが、すぐに環境に順応できたと感じています。